

小テーマ②：理想的なエネルギーミックス

現状のエネルギーミックスの課題点

- 現状のままでは、CO2の目標数値を叶えられない
 - 気候変動・国際協力の観点からあまり良くない
- 電力の供給安定性にも難あり
 - 節電・停電などの呼びかけ
 - 太陽光・風力・水力発電はこの点においてはあまり当てにできない

→ CO2の目標数値と電力の供給安定性を考慮すれば、原子力の使用は避けられない

→ どこまで上記2点（特にCO2の目標数値）を重視するかによってエネルギーミックスが変化する

エネルギーミックスで...

- 原子力を使用した場合
 - 原子力の割合の拡大
 - 上記に伴い、CO2目標に合わせたエネルギーミックスを構成
- 原子力を使用しない場合
 - 可能な限り、再生可能エネルギーの割合を拡大
 - エネルギーの安定供給を第一目標に、CO2目標を可能な限り組み込む？

エネルギーミックスにおいて原子力を使用する場合の利点・懸念点

利点：国際協力・外交的利益

- CO2削減目標に対して前進可能（＝気候変動への国際協力が可能）
- 核戦力の不保持を抑制するという面においては、外交的利益はあるかもしれない
 - 核不拡散の文面を締結しないと原子力発電用のウランを輸入できないため
 - → 被爆国としての在り方との矛盾は考慮しなくても良い
 - ⇔ 原発事故の当事者との向き合い方

懸念点：国内不安、前の議論で取り上げた様々な考えられるデメリット

エネルギーミックスにおいて原子力を使用しない場合の利点・懸念点

利点：原子力発電に関する様々なデメリット・責任を考慮しなくても良い

懸念点：CO2削減目標・安定性（安全保障含む）に対する課題

- CO2削減目標を達成できない可能性が非常に高い
 - 再エネを急拡大できたところで、安定性に難ありのため
 - → 結果的には従来の発電方法に頼らざるを得ない
- 再エネの増加：中国製品の使用増加・輸入への依存度↑による安全保障上の不安
 - エネルギー自体は国産であっても、その技術の大半は中国産
 - 安全保障上の課題として、どのように捉えるか
 - **ただし、中国製品を代替する目的で、再エネ技術開発へのインセンティブ・補助金の増額によって回避できる可能性**
 - 上手くいけば、西側諸国における再エネ技術の市場の空白に入り込める